

今年の北海道は寒さ厳しく、皆様もニュースでお聞きかと思いますが、札幌は11年振りの大雪となりました。北海道7日目、雪には慣れたつもりでしたが今回ばかりは驚きの冬となり、状況を報告させていただきます。

1月も今年は雪が多いなと思っていましたが、2月に大雪襲来となりました。土曜の夜から雪が降り続き、日曜のお昼前に雪かきをしようと思ひ、外に出ました。すると膝までずっばり、駐車場の車を見ると雪の山となっていました。まずは月曜に備え、車を出せるように雪かきする事1時間。次に住宅街から幹線道路へ続く道路を確保するため、同じように雪かきをする住民3名と相談し、協力作業で雪かきする事2時間。なんとかなりそうな所で、隣の住民の車が雪にはまり動けなくなったとのことで、皆で協力して脱出作業の雪かき。無事に脱出でき、道路除雪作業を再開し何とか形になり一安心。

月曜の朝、夜中に降った雪の除雪を早朝6時より行い、無事8時前に営業所到着。しかし除雪業者がまだ到着しておらず、入口ドアが半分埋まった状態。会社に入る為、また雪かきとなりました。雪かきばかりの2月の札幌となりました。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は静岡県浜松市にあるスズキ歴史館を紹介いたします。ここは名前から想像がつく方もいらっしゃると思いますが、あの自動車メーカー・スズキの企業博物館になります。

スズキといえば今となっては小型車のイメージが強いのと思いますが、元々はトヨタと同じように織機から始まったメーカーで、その後二輪車、四輪車のメーカーとして発展していくことになりました。

館内は織機から始まり、二輪車、四輪車製造への変遷が紹介されており、合わせて織機から始まり歴代の二輪車、四輪車等が展示されています。(懐かしい車両が展示されています。ちなみに私が社会人になって最初のマイカーは、スズキのセルボモードでした...)

今では自動車メーカーとして世界的な企業になっていますが、スズキの成り立ちを知る上では良い場所だと思います。コロナ禍で事前予約が必要な施設ですが、入館料は無料ですので皆様も足を運ばれてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)



世界の拠点から

-From the base in the world-



自動車オートアフターマーケット見本市、第19回国際オートアフターマーケットEXPO2022 (IAAE2022)が、今年3年ぶりのリアル開催となり、弊社も出展させていただきました。

約3年ぶりということ、コロナ禍ということなのか、国内出展業者数は過去最大の総数225社。補修部品市場の活性化に向けた活動となりました。優良部品メーカー様はじめ、電装・ブレーキなどのリビルト業者様や、ケミカルやIT関連、钣金関連など多数出展。弊社も、主力のラジエーター・コンデンサーをはじめ、インタークーラーやEGRなども展示いたしました。

出展される企業様や、ご来場された自動車関連企業様、皆さまやはりコロナの影響についてお話しされていたことも印象に残ります。引き続き、コロナが落ち着き、早期に終息することを願いたいと思います。



東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

コロナ禍が中々落ち着かないですね。これを書いている時は関西も全体の感染者数は徐々に下がってきましたが入院患者も増え、重症者、死者も増加しています。オミクロンとはいえ注意したいですね。

さて、休日は自宅に引きこもり状態ですが、クルマの給油を兼ねて住んでいる尼崎市を回ってみました。あまり行かなかった海沿いにはここ1~2年で延べ床面積10万平米以上のメガ倉庫が何棟も建ち、現在、パナソニック工場跡地に西日本最大の39万平米の倉庫も建ちました。この中にアマゾンデリバリーセンターがあります。そして川を1本渡った阪神高速湾岸線の尼崎東海岸出入口そばにもアマゾン尼崎FCもオープン予定。こちらの倉庫もかなり大きく容量も凄い。尼崎は大阪市内まで距離も近いので便利。私もアマゾンを使っているので近距離に倉庫が出来るのはありがたい。住んでいる街が良い方向に変化していました。

2025年の大阪万博で大阪もどんな感じに変化するか楽しみでもあります。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

オミクロン株が出て急速に感染拡大した日常。巷では第六波とのことで、大きな騒ぎとなってきていますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。どうぞ体調にはお気を付けてお過ごしくださいませ。

さて、私には縁もゆかりもない2月のイベントとして『バレンタインデー』なるものがございます。子供の頃を思い出すと恋愛事情に縁がなかった思い出す今日この頃(笑)。そのバレンタインデーがコロナの影響で変わりつつあるようです。それが、義理チョコや友チョコなどを贈らなくなっている?ようです。普段の感謝を込めて友達や家族に贈る義理チョコや友チョコですが、密を避けて距離をおくことが求められている今、接触を避けるということで、こうしたやりとりが省かれてきているようです。その分本命に対するチョコレートやギフトは相場も上がってきているなど、親密な相手には普段の感謝の気持ちをより伝えたいという傾向にあるようです。もしかすると本来の形に戻りつつあるのかもしれませんが。

因みに我が家ではフォルクスワーゲンの『ビートルチョコ』なんてものをお嫁様から頂きました。中にはビートルを模ったチョコレートが入っており、面白いなと思いながら美味しく頂きました。また、息子たちも私に似てチョコには縁遠いということもあり、大量の板チョコをお嫁様から頂いていました(汗)。似なくていいところは似てしまうと、改めて残念に思ったのは言うまでもありません(泣)

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

義理のお姉さんの長女が高校を卒業後、東京にある大学に留学。大学卒業後、日本の会社に勤めていました。

両親に早く結婚するように入れられ、オンラインアプリでインドネシアにいる方と知り合いました。半年後、コロナによりインドネシアでの長期在宅勤務許可を得て帰国し、お付き合いを続けました。お互い気が合い、先日結婚式を行いました。

行事として三日間かかり、その間に私が新婦家族の代表者として指名されました。

1日目は新郎と新郎家族が新婦の家に来てプロポーズ。プロポーズの返答まで私が話をし、それから彼女の両親がプロポーズの返答をしました。

2日目は新婦だけの行事で4時間。今まで両親が面倒をみてきましたが、結婚式後は両親の責任はなくなり、新婦の面倒はすべて新郎がみます。両親が彼ら家族に口を出すことはありません。家族の問題は自分たちで解決するようにします。

3日目は正式な結婚式。ここでも色々な行事があり、昼1時から午後6時まで何と5時間。三日間連続で体が本当に疲れました。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～今年もきっと満開に～

3月の梅の花。白やピンクのつぼみが膨らみ、やがて丸く楚々とした花が開きます。今年の蘇州での冬は例年よりはやや穏やかで梅の花が2月下旬から咲き始めました。蘇州の旧市街を歩くと艶やかに咲く梅の花、そして昔ながらの蘇州建築や庭園が見事にマッチし、美しい景色に癒されながら春の訪れを予感させてくれます。KHE工場にも梅の花が何本もあり、毎年紅い花を咲かせます。

そして梅の花の季節が過ぎると桜です。蘇州周辺でも近年、桜の名所がたくさん増え、4月になると多くの公園は花見の行楽客で賑わいます。上方山国家森林公园や拙政園など桜の名所もありますが、蘇州工業園区内にも以前に比べるとずいぶん桜の木が植えられ、中国に居ながらにして春の桜を感じることができています。

KHEにも桜の木が2本植えられています。毎年3月になると会社の門を入りこの桜の木の前を通り、小さく固いつぼみが日に日にほころんでいく様子を見るのが私の楽しみです。KHEの2本の桜はまだ樹齡が若く細いので、見渡す限り咲き乱れ、とはいきませんが、小さくとも今年もきっと満開に咲いてくれることを期待しています。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

冬季オリンピックもあっという間に終わってしまいましたが、アメリカでは歴代冬季オリンピックの中で最低視聴率だったと報道されています。こちらでは地元トランス出身スノーボード女子ハーフパイプで2大会連続金メダルを獲得したクロエ・キム選手や、ここアーバインに練習拠点を置く男子フィギュアスケート金メダルのネイサン・チェン選手を応援していました。また、今回は残念ながらアルペンスキーの看板スターのミカエラ・シフリン選手がメダル獲得なしに終わってしまいました。

視聴率低迷の原因として、時差の問題や外交的ボイコットが影響していたようです。さらに最大の原因はアメリカ最大のイベントであるスーパーボウルが同時に開催されていたことのようにです。

さて今年のスーパーボウルの結果については先月触れましたが、ロサンゼルスを舞台に地元チームのロサンゼルス・ラムズとAFCチャンピオンでここまで番狂わせで勝ち進んできたシンデレラチームのシンシナティ・ベンガルズの対戦となりました。試合は手に汗握る大接戦で、最後は試合時間残り2分で逆転のタッチダウンを決めた地元ロサンゼルス・ラムズが22年ぶり2度目のスーパーボウルを制覇しました。

注目のハーフタイムショーはドクター・ドレー、エミネム、スヌープ・ドッグなど超豪華な5組の出演でしたが、正直ポップホップ・ミュージックをよく知らない私にはその凄さは分かりませんでした。しかしながらセットやほかのダンサーなどの演出はとても良かったと思います。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

便利な習慣や、慣れ親しんでいる習慣を変えるには強い決意が必要です。違った生き立ちの人々にとって、国の習慣を変えることはさらに困難です。変更には数年または1世代かかることもあります。ただし、シンガポールのような小さな国では、従わない場合は罰金を科すなど強力な規制を適用しやすいです。

シンガポール当局がフードコート/ホーカーでトレイ・カトラリー返却キャンペーンを開始してから数年が経ちましたが、成功しませんでした。今でも、掃除するのは係の仕事だと考えています。2021年9月1日より、食後にトレイとカトラリーを返却しない場合、300シンガポールドル程度の罰金もしくはそれ以上が科せられることになりました。以降、テーブルはちゃんと片付けられ、従わない人はほとんどいません。

良い習慣は幼い頃から始めるのが良く、これは国全体に良い影響を与えます。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

新型コロナ問題が続く中、ロシアのウクライナ侵攻という新たに悲惨な状況が起こっています。プーチンは、しばしばソビエト連邦崩壊を『20世紀の最大の悲劇』と表現しています。プーチンが関わっている限り、旧ソビエト連邦は依然としてモスクワの配下です。彼は、国々が好む好まざるに関わらず、ロシアの勢力下にあると信じています。ウクライナやベラルーシが民主主義を選択することは、ロシア大統領にとって容認できないことです。

西側はロシアのウクライナ侵攻を非難しています。ヨーロッパだけでなく、英国や米国もロシアに厳しい制裁を課しています。それらはロシアに甚大で深刻な結果をもたらし、孤立させるでしょう。しかし、これではプーチンが西側へロシアの威信を示すことを止められません。

ウクライナと核兵器をもつロシアの対決は絶望的に見えました。ロシアにはウクライナの4倍の兵士がいます。しかし驚くべきことに、ウクライナの粘り強さと意志は、大軍よりも強力でした。

私たちがこの戦争を受け入れず、ウクライナ支持を示すことが不可欠です。ウクライナを支援するために集まった義援金は、1億620万ユーロ以上。収益で、被害を受けた方に避難所、医療、きれいな飲料水などの緊急援助を提供します。

すでに150万人がウクライナから逃亡し、爆撃により無実の民間人と子供たちが殺されています。両国の戦争が間もなく終結することを願っています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)